

ひょうご

職親会だより

1998. 7 第3号

平成10年度

総会・講演会を終えて

兵庫県精神保健職親会
会長 森本 稔
(森本鐵工株式会社)



ごあいさつ

猛暑に向かう厳しい日々が続いております。日頃は兵庫県精神保健職親会に御理解、御協力をいただき心から感謝申し上げます。

当協会も設立して早1年、平成10年度の総会を無事終えることができました。その間、総会資料にもあります様に、まず職親としての研修や勉強が大事ということで進めてまいりました。

総会当日、会長挨拶として次の様な話をしました。

「平成9年度は、精神障害者にとって、大きな変革の年であった様に思います。

行政的にも、福祉3障害の1つとして位置付け

られたと聞き、まず一步前進と期待される処であります。当職親会に対する期待も比例して大きくなるでしょう。本会の結成は当を得たものでなかったか、と考える次第です。

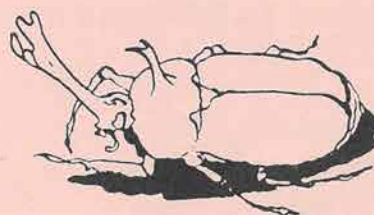
前にもお話をさせていただいた様にと思いますが、私達は単に訓練生に職場を提供しているだけでなく、職親が共に研修し、情報を交換し、制度の改正を承知し、その人達の支えの1つとしての『ほこりと情熱』を持った会として進めていきたいと思っています。

1年間の経過、並びに、本年度の計画につきまして、期待されたものには遠いかもしれませんが、皆さん方の提言をいただきながら、一步一步進めていきたいものと考えておりますので、今後共によろしく願います。」

——この国に生まれた不幸、云々——が死語になる日を願って。

七夕や 孫にせかされ 肩ぐるま
炎帝の 影をとばして 石参道
夕立の ちかくに見えて 仕舞事

森 本 稔
合 掌



去る平成10年6月4日(木)、平成10年度兵庫県精神保健職親会総会が、会員12名、関係者44名の出席を得て、行われました。
(於： 神戸市生活学習センター)



平成9年度事業報告

(1) 定期総会及び講演会

9.7.1(火) - 兵庫県農業共済会館 -

◆講演 「夢」

《講師》 森下神経内科診療所院長、生野学園
副理事長、「一ちゃんラーメン」顧問
「喫茶テン」事業主 森下 一

*参加者：128名（職親19事業所、21名／関係者107名）

(2) 研修会の開催

9.11.14(金)～15(土) - ひょうご共済会館 -

◆講義 「障害者の雇用促進に関する制度について」

《講師》

兵庫県労働部職業安定課障害者雇用担当官
中内 隆三

◆精神障害者社会適応訓練事業研修会報告

イシイリネン株式会社

(兵庫県精神保健職親会副会長)

石井 建三

*参加者：32名（職親11名／関係者21名）

10.2.4(水) - 精神保健福祉センター -

◆講義 「精神科リハビリテーションについて」

《講師》 県立光風病院副院長 岩本 昌和

◆話題提供 高嶋園芸

(兵庫県精神保健職親会監事)

高嶋 秀忠

*参加者：42名（職親20名／関係者22名）

(3) 役員会の開催

9.8.27(水) - 精神保健福祉センター -

◆第1回役員会

*参加者：8名（役員4名／関係者4名）

9.11.14(金) - ひょうご共済会館 -

◆第2回役員会

*参加者：12名（役員6名／関係者6名）

10.2.4(水) - 精神保健福祉センター -

◆第3回役員会

*参加者：10名（役員5名／関係者5名）

(4) 情報提供

9.9.9(月)

◆「ひょうご職親会だより」設立記念号発行

10.1.1(木)

◆「ひょうご職親会だより」第2号発行

(5) 全国職親会への協力

9.10.3(金)～4(土) - ハートピアきつれ川 -

◆「精神障害者社会適応訓練事業研修会」参加 (兵庫県精神保健職親会副会長)

石井 建三

10.3.27(金)～28(土) - 国立精神・神経センター -

◆「第9回精神保健職親研修会」参加

(兵庫県精神保健職親会会長)

森本 稔

事務局2名

《参考》

兵庫県精神保健職親会会員 63事業所

賛助会員 90名(245口)

(平成10年3月31日現在)

精神障害者社会適応訓練事業協力事業所数

156カ所 (平成10年2月1日現在)

内訳

	事業所数	うち稼働している所	職親会会員
兵庫県	130	70	54
神戸市	26	14	9
計	156	84	63

平成9年度収支決算書

(収入の部)

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
年 会 費	183,000	119,895	△63,105	3,000×39事業所 2,895×1事業所
賛助会費	121,000	242,000	121,000	1,000×242口
寄 付 金	20,000	30,000	10,000	全国職親会 10,000 精神保健協会 10,000 精神神経科診療所協会 10,000
雑 収 入	400	805	405	預金利子ほか
計	324,400	392,700	68,300	

(支出の部)

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
講師謝金	50,000	40,000	△10,000	記念講演会 30,000 研修会 10,000
旅 費	65,000	48,980	△16,020	全国研修会1人×1回
会 場 費	118,200	159,810	41,610	講演会(会場2,110,看板68,250) 研修会場 9,450
通 信 費	21,200	33,000	11,800	切手
事 務 費	30,000	49,051	19,051	封筒、印鑑、 写真現像ほか
予 備 費	40,000	40,000	0	全国職親会費
繰 越 金	0	21,859	21,859	次年度に繰り越し
計	324,400	392,700	68,300	

上記のとおり相違ないと認めます。

平成10年3月31日

監事 高嶋 秀忠 ㊟

監事 上川 雄吾 ㊟



平成10年度事業計画

- 1 定期総会及び講演会
- 2 研修会の開催(年2回、内1回は県立精神保健福祉センターとの共催)
- 3 役員会の開催(年3回)
- 4 情報提供 ひょうご職親会だより発行
- 5 全国職親会への参加並びに連携
- 6 その他

平成10年度予算書

(収入の部)

単位：円

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
年 会 費	189,000	183,000	6,000	3,000×63事業所
賛助会費	121,000	121,000	0	1,000×121口
委 託 費	273,000	0	273,000	兵庫県
寄 付 金	1,000	20,000	△19,000	
雑 収 入	21	400	△379	預金利子ほか
繰 越 金	21,859	0	21,859	前年度より
計	605,880	324,400	281,480	

(支出の部)

単位：円

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
講師謝金	80,000	50,000	30,000	講演会 50,000 研修会 30,000
旅 費	215,000	65,000	150,000	講演会・研修会講師 40,000 全国研修会 50,000×1人×2回 役員会 25,000×3回
会 場 費	40,000	118,200	△78,200	総会・講演会 20,000 研修会 20,000
通 信 費	62,880	21,200	41,680	80×133人×5回(総会、研修会、情報提供) 80×7人×3回(役員会)
事 務 費	153,000	30,000	123,000	消耗品(文具、コピーなど) 印刷代(ひょうご職親会だより)
予 備 費	55,000	40,000	15,000	
計	605,880	324,400	281,480	

役 員 名 簿

役 職	氏 名	事 業 所 名
会 長	森 本 稔	森本鐵工株式会社
副会長	西 村 稜威雄	西村商店
〃	石 井 建 三	インイリネン株式会社
理 事	米 口 守	有限会社米口グリーンナーセリー
〃	細 見 勝	伸和青果食品株式会社
監 事	高 嶋 秀 忠	高嶋園芸
〃	上 川 雄 吾	株式会社金森商店



祝 辞

兵庫県健康福祉部障害福祉課
課長 大 西 孝

本日は、平成10年度兵庫県精神保健職親会の総会にお招きいただきましてありがとうございます。

また、平素は本県の精神保健福祉行政の推進、特に、精神障害者の社会参加及び社会復帰の促進につきましては格別のご協力を賜っており厚くお礼申しあげます。

平成7年に精神保健法が精神保健福祉法に改正され、精神障害者の社会復帰等のための保健福祉施策の充実が求められておりますが、県では、このような要請に基づき、障害者施策を総合的に推進するため、今年度より精神保健福祉対策については、障害福祉課で行うこととしましたのでよろしくお願い致します。

さて、通院患者リハビリテーション事業は、皆様のご協力のもと、神戸市を除いて、現在、129事業所が協力事業所として登録していただき、127名の訓練生がお世話になっており、通院患者リハビリテーション事業においては職親の皆様の熱意を受け大きな成果をあげていると確信しております。

今後とも、1人でも多くの精神障害者の社会復帰が図れるよう、より効果のある事業として発展させられるよう事業の推進を図る所存でございます。

そのためには、この総会の後に予定される研修会等での情報の交換や知識の向上、各地域での職親制度参加の働きかけ等、職親会の皆様方の活躍に期待するところが大きいわけですが、この場をお借りいたしまして、改めてご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、職親会の躍進と、ここにご参集の皆様方のご健勝を祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。

祝 辞

神戸市保健福祉局障害福祉部育成課
課長 安 井 昌 義

平成10年度兵庫県精神保健職親会総会のご盛会をお喜び申し上げます。

職親の皆様におかれましては、日頃から精神に障害を抱える訓練生の社会復帰に向け、深い理解と熱意をもって御指導をいただき、厚く御礼申し上げます。

現在、兵庫県下の訓練生数は全国でもトップクラスでございますが、昨年大勢の方々の御賛同のもと、職親会が発足したことは事業の推進にとって一層の弾みになるものと期待しております。

ご承知のとおり、精神障害者の社会復帰・社会参加の支援施策は、他の障害者と比べて歴史が浅く、日常生活や就労支援のための社会資源が不足していることは否めません。その意味で職親事業は、精神保健福祉施策の一環として依然重要な役割を果たしているといえると思います。

もちろん、ハード面の整備も重要であり、本市におきましても、平成9年2月に策定した障害者保健福祉計画に基づき、平成10年度にグループホームへの運営補助や社会復帰施設の整備費補助を新規で行い、これを契機に幅広い施策展開を図っていきたいと考えておりますが、職親事業につきましても、ニーズはまだまだあると思います。

本市と致しましても職親の皆様との連携を図りながら事業の推進に努めて参りたいと存じますので、今後とも、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、職親会の一層の御発展と職親の皆様のご健勝並びに御多幸を祈念致しまして、甚だ簡単ではございますが、お祝の言葉とさせていただきます。

職親会へのおさそい

本会は、精神障害者の社会復帰および社会参加を援助するとともに、正しい精神保健福祉に関する知識の普及を図るために、会員相互の情報交換、研修などを通じて資質の向上に努め、かつ会員相互の親睦をはかることを目的としています。

会 費 年額 3,000円

賛助会費 年額 1口 1,000円

振 込 先: さくら銀行神戸駅前支店 普通 313-6918374

名義人 兵庫県精神保健職親会 代表 森 本 稔

入会については事務局までお問い合わせ下さい

事務局 兵庫県立精神保健福祉センター

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-29

(TEL) 078-511-6581 (FAX) 078-511-6585

私が精神障害者と精神保健職親会に学んだこと

元障害者職業総合センター研究員

野 中 由 彦 氏

私が精神障害者と精神保健職親会に学んだことという題で少しお話しさせていただきます。

全国12職親会を回りまして精神障害者の方々や職親会の役員さんに会ってお話を伺いまして、まず感じた事は、20年、30年と職親を続けられている方々は私は人間国宝級大教授と呼びたいと思います。

この人達の話聞き、教えをうけて、その中から受入事業所における精神障害者の指導方法及び雇用管理に関するノウハウ（精神保健職親会等訪問調査から）を次の様にまとめました。

- ① 家族に接するように対応している
（全面観察法及び随時個別面接法によって状況把握）
- ② できる仕事を無理なくやれるようにしている
（作業の調整、作業能力に対する期待水準の調整）
- ③ 諸々の面倒をみる人を身近なところに付けている
（日常的に目の届く範囲に密着型指導者を配置）
- ④ 複数の精神障害者を受け入れ、孤立させないようにしている
（グループの就労のメリットを強調）
- ⑤ 住居、食事、通勤など仕事以外の面倒もみている
（住居確保と生活支援が不可欠、必要に応じ自ら支援）
- ⑥ 報酬や交通費等の支給等は悩みの種である
（労働又は作業に対する報酬に苦慮）
- ⑦ 安心感、安堵感を作り出すようにしている
（優しい対応への傾斜と事業所の雰囲気の変化）
- ⑧ 長期的に関わっていくことを前提として見守る
（すぐに判定を下したり、たやすく排除することをしない）
- ⑨ 精神障害者の現状を許容し、過大な期待や要求をしない
（相手や状況に応じて期待水準を調整する）
- ⑩ 厳しく注意することをしない
（厳しく注意しても、必ずその反対の対応をセットにする）
- ⑪ 誉める
（積極的に肯定する、プラスメッセージを送る）
- ⑫ 微細なところまで公平・平等に扱う
（報酬以外の日常の対応は、徹底して公平・平等にする）

以上12項目になりましたがその中で私の心に残ったいくつかの事例をお話したいと思います。

まず精神障害者とは、どういう人達かとの問いに対し私は「常識を根底から問い直させる人達」と表現します。

1つの例ですが障害者が職安に求職申告します。係員は「治ってから来なさい」という。常識ですね。でもこれではどうもなりません。車椅子の人に歩ける様になったら、来なさいと云うのと大差なしです。

最近職安も障害者雇用を目を向けてきましたがまだまだの面（精神障害者の窓口がない）がありますが？

又、妄想のある人に仕事をあたえるのは「トンデモナイ」と言われております。

妄想もいろいろの型がある事が分ってもらってないのですね。

妄想の事でこんな話がありました。

山形県の会長さんの話しです。

妄想のある人を少し前までは「ひっぱっていこう〜」としておりました。でもその考えはダメでした。考え方を変えました。その人の現状を許容する事に気づきました。

そこに行くまでに10年かかりました。と言われました。理解するのに長い期間がかかるのですね。愛知県豊橋市の職親会の副会長の奥さんの言葉ですが、「愛情と仕事があれば治っていくんです」と言われました。

治るという意味が病気が治るという意味ではないのです。

そういえば私が見たイギリスの障害者のリハビリの映画でそのナレーションに「住居と仕事があれば精神障害者のリハビリはない」というのがありました。25年前に製作されたものですよ。

奥さんの言葉の中には、愛情と仕事をセットにして提供しています。トータル支援です。大きいのは一緒に生活していることでしょう。24時間体制で全面支援を組んでいます。「仕事」とは、就労の場と収入と社会的役割です。「治る」とは、疾患そのものの完治のことではありません（残念なことですが）。人生の改善、生きることへの構えの修正、希望です。病気を抱えていながらも自分らしく、納得いくような生活をする事です。それは結果としては、症状にも好影響を与えるものなので「治っていく」という表現につながるのだらうと思います。

精神障害者の職業リハビリテーションの問題

- ・奥が深く、幅広い
- ・一般の市民が、この問題に正しく対応できるようにするための情報が必要である
- ・精神障害者の職リハの



キーワード＝「安心感、安堵感」

- ・偏見の問題をいかに克服するか
- ・やる気とちょっとの作業能力があれば、そのままの状態でも働ける、病気があっても働ける、ハードルを低くする、それも、本物の地域の事業所を舞台にして

精神障害者が社会参加していくということは、社会全体の質を変えていくという大きな仕事につながるのではないかと。それは「人を痛めつける社会」から「人を癒す社会」への変革を意味するものではないか。日本社会も、「この邦に生まれたるの不幸」を重ねているという精神障害者が統合されることによってこそ、子どもの世界にまでいじめがはびこっているような「弱くもろい社会」から脱することができるのではないかと。精神障害者の職業問題に携わってきて、私は、だんだんこう思われるようになってきています。(後略)

文責：事務局



リサイクル自転車による精神障害者の社会復帰への道

兵庫県精神保健職親会
監事 上川 雄 吾
(金森商店)

当社が職親として障害者の方のリハビリ訓練をさせていただくようになって五年位になりますが、最初はどうに対応してよいかわからず問題も多々ありました。

「いまでも小さなトラブルは時々あるのですが何とか無事にやれてきております。」

最近になってリハビリ生には色々な人がおりこちらの物差しではかるとだめという事が分かってきました。

さて、私の提案なのですが当社のやっております仕事はリサイクル業でして中古品の売買を中心としています。その中で再生自転車＝リサイクル自転車のところでリハビリ生の訓練、仕事をやらせてもらっています。このリサイクル自転車を作るには一人でも勿論できるのですが何人かで工程を分けてやる方法がとれます。共同でやるところに連帯感が生まれます。そしてこの再生自転車工場はスペースさえ広ければ何人でも訓練生の受け入れが可能なのです。

私の個人的な意見ですがリハビリ生の全員が社会復帰できるかというところかなり厳しいものがあると思います。また一般企業へ勤めだしても病気の再発で退社という事になり段々本人も自信を失い病気をもちまま生活していくことになるのです。

あるテレビ番組で精神障害者の人達で作っている住まい兼作業所の〇〇〇の家というのが紹介されていました。そこのリーダー責任者の話ですが「自分にこの病気があるのは分かっていた。そして最近段々悪くなっているのがわかる。自分の調子のいい時に何とか自分自身また仲間のおれる場所を作りたいかった。」といい木工所でおみやげ人形とかの木製品を作っていました。そして彼は「来たい人が来たいときに来て居りたいだけで、仕事がしたければしたいだけやり、いやになればやらなくてもいい、そして帰りたくなれば帰ればいい。仕事をした分の給料は払う。」とっていました。その額が高いか低いかはわかりませんが意味でのユートピアだなと私は思いました。

今、私の所での問題点は場所設備が狭いという事と品物、原料となる自転車の入荷が少なく仕入値が一定しないという事です。

全国各市で放置自転車の問題が云われていますが、当尼崎市も同じ事がいわれているように思います。

私の提案は＝精神障害者によるリサイクル自転車工場会社の建設なのです。一般市民また市の担当者の方のご理解があれば十分実現する事だと思います。

兵庫県精神保健職親会

事務局：

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-29
県立精神保健福祉センター内
Tel : (078) 511-6581
Fax: (078) 511-6585